

～生活支援コーディネーター通信～

第2号



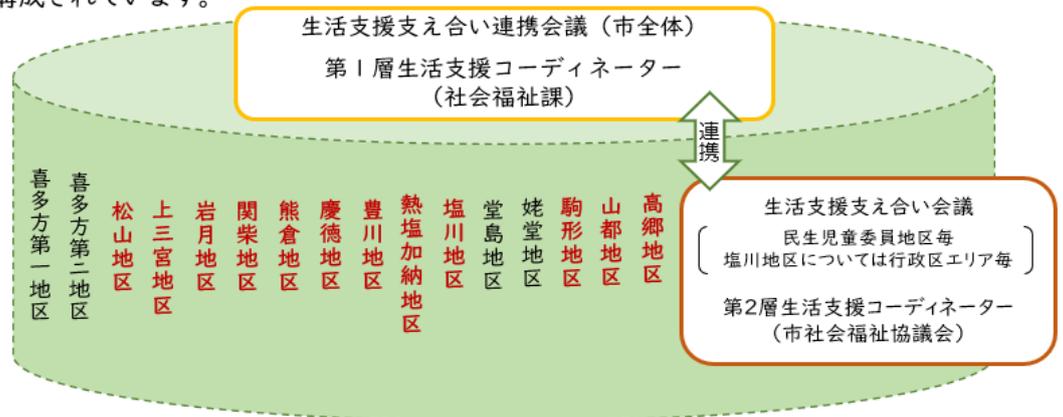
喜多方市第1層生活支援コーディネーター（別名：地域支え合い推進員）笹川真紀です。年齢や障がいの有無にかかわらず、住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、生活支援・介護予防の体制づくりを進めるための活動をしています。

～生活支援支え合い会議～

地域住民と関係者が話し合い（生活支援支え合い会議）を続けており、市内では12地区設立（令和6年1月現在）しています。できそうなことはやってみる、仲間を見つけ一緒に活動する、地域で活動している団体へ繋ぐ。できることを見つけながら新たな活動へと広がりをみせています。

市全体のことを話し合う「生活支援支え合い連携会議（第1層）」と各地区毎の話し合いを行う「生活支援支え合い会議（第2層）」で構成されています。

赤色の地区は設立した地区です（R6.1月現在）



～高齢者向け生活支援ガイド～

「高齢者向け生活支援ガイド」は、市内のつどいの場や生活用品等の配達、草むしりや雪かたしの事業者などが掲載されていますので、安心材料の一つとしてご利用ください。（すべての事業所が掲載されているわけではありません）

QRコード



最新版は令和5年12月版「黄色」の表紙が目印です

～オレンジガーデニングプロジェクト～



9月の世界アルツハイマー月間のシンボルカラーである“オレンジ色の花”を地域に咲かせることで「認知症になっても、暮らしやすいまちをみんなで創る」という思いを広げていく活動です。

喜多方市もこの活動に賛同し、生活支援支え合い会議や関係者他、たくさんの方々にご協力いただき、きれいな花を咲かせるとともに想いを伝えることができました。

市ホール棟市民ホールにて、「認知症と共に生きる」を考える強化月間では、認知症に関する各種取り組みとして、市に咲くたくさんのオレンジや黄色の花の写真を掲示しました。



生活支援支え合い連携会議（第1層）

「お互いに声をかけあえる地域」にしたい!この気持ちを市民に届けるべく、令和5年11月7日(火)、第1層委員主催で「身近な人とつながる声かけ講座～お互いに声をかけあえる地域を目指して～」を行いました。

1層委員の活動紹介後、講師には、猪苗代 壽徳寺 住職 松村妙仁氏をお招きし、ご講話いただきました。つながりの第一歩となる声かけは、見守りや安否確認など安心できる地域づくりのきっかけのひとつであり、「声かけで気をつけたいこと」や「自分の心のコップも大切にしよう」など、参加した皆様と心に残る時間を共有することが出来ました。



<研修会の様子>
委員の活動報告と講話を行いました。
総勢86名!多くの皆様にご参加いただき、ありがとうございました。



会議の中で、資料の字体について提案があり、高齢者にも見やすい字体に変更しました。小さなことからコツコツと…変えていきます(∇∇)/



会議の様子…みんなで意見を出し合います。



QRコード

「おたがいさまで見守り合い実践BOOK(概要版)」を作成しました。声掛けのアイテムとしてご利用ください。

～研修会を終えて～

アンケートでは、多くの方が「自分や家族は地域とのつながりがあり、普段から声かけやあいさつをしている」「今後はあいさつや声かけをしようと思う」と答えており、地域のつながりは大切だと感じている方が少しずつ増えてきているように思います。

ここ数年、日本では毎年のように10年に一度、100年に一度といわれるような災害が起きています。

有事の際、自分の身を守ること(自助)は何より優先される大切なことです。自分の身を守った後、地域のつながりが大きな力となるので、普段から隣近所を知っているからこそできる自然な助け合い(互助)についても考えてみましょう。

※生活支援コーディネーター通信(創刊号)については、市ホームページ等でご確認いただけます。



QRコード

(問合せ先) 市社会福祉課地域包括ケア推進班 第1層生活支援コーディネーター 笹川 ☎24-5257

令和6年1月作成